

6番 小松ひとみです。通告に基づきまして、一般質問を行います。

(住民参加での龍泉洞魅力拡大について)

佐々木真町長におかれましては、この度、町長選挙を戦い抜き、町長に就任されてからは、先の所信表明まで、町への思いを語るなか終始一貫として「岩泉愛」が溢れておりました。

「人がどんどんいなくなる」「不便さが目立ってくる」などとマイナス思考ではない「町はまだまだ捨てたもんじゃない」「力を合わせて盛り上げていけるんだ」という明るい希望を掲げていただいたことに、私は大いに共感しています。

本年度は町政施行 70 周年の年であります。これまで世代交代、社会の変革を経て、私たちは多くのことを学び、多くの方々を受け入れ、交流してまいりました。そして、その結果として、今まで育んできた大きな経験と知恵があります。

そこで、この地で生活する住民が共に足元を見直し考える契機・チャンスとして「龍泉洞」を盛り立てることに住

民参画を促しませんか。

龍泉洞には、言うまでもなく日本全国、世界中から多くの方々が訪れてくださいます。みなさん「素晴らしかった」「よかった」との言葉をくださいますが、本来観光とは、その地元の方と触れ合うことです。「ありがとうございました」「またきてください」との言葉を背にする方は、振り返り、もっといろいろなことを聞きたくて、知りたくて、言葉を交わし、ふれあいたいと望んでいるものと存じます。

そこで提案いたします。龍泉洞園地内に簡易販売所、軽トラック市（軽トラマルシェ）などのように区画を作り、販売できる場所・機会を設けてはいかがでしょうか。期間限定でそれぞれ順番でも良いと思います。広い面積を持つ岩泉の各地域の特色を生かした出店が期待できます。観光客との触れ合いは、お金を稼ぐことだけではなく、多くの気づきをもたらすはずです。龍泉洞園地は魅力満載でたくさんさんのメリットを生むに違いありません。

町長の所見をお伺いいたします。

(防災・減災対策について)

次に防災・減災対策についてお聞きします。

台風第 10 号からの災害復旧・復興工事が完了しました。

完了記念式典が昨年 11 月 1 日に県知事をお迎えして挙行されました。

その際、県から「岩泉町は防災の町としてトップランナーである」と言われたことが耳に残っています。

多発する自然災害、気象構造の変化から多くの新しい事象が発生するなか、この被災の経験だけでなくより深く学び直す時ではないかと存じます。防災士資格取得者 200 名を超えてから、現状ではどうなっているのか、組織のあり方や活動について点検も必要な時期です。「危機管理」という点からも改めての体制作り、人材の活動支援を望みます。

町長のご見解をお伺いいたします。

最後に、大船渡椿サミットの方々が、大船渡での山林火災での全国からの支援に感謝し、訪れてくださる方々に誠意を込めておもてなししたいと伺いました。わたしたち岩泉町民も度重なる災禍（さいか）に際し、温かいご支援を

いただきました。感謝の心を忘れずにいることを申し上げ、本席からの質問を終わります。

6番 小松 ひとみ 議員の御質問にお答えします。

はじめに、住民参加での龍泉洞の魅力拡大についてありますが、まさに龍泉洞は、全国から年間16万人を超える観光客が訪れる町の宝、町民の宝であります。

議員御提案の龍泉洞園地内での出店につきましては、これまでも園地内での出店はできるところではございますが、現在は、龍泉洞まつりの開催時には、町内外の皆様にご案内し、出店の申請があった際は、これを許可し、実施してまいりました。

昨年7月から8月には龍泉洞入洞者が非常に多く、食事サービスの提供に課題を感じたところであり、令和8年度はお客様が多い時期は、園地での出店を募る方向で考えております。

今後、既存の簡易販売小屋の利用案内や園地内での出店スペース利用の詳細を協議し、町内事業者の方々へ案内してまいります。

本町を訪れる観光客の皆様のおもてなしの向上を図るため、各地域の特色を生かした出店や地元の方々との触れ合いは、非常に有益であり、町といたしましても、来訪者の滞在時間を延ばす工夫について、町民の皆様、関係者と意見交換しながら実施してまいります。

次に、防災・減災対策についてありますが、本町の防

防災士は、令和8年2月末時点で207名が認定されており、本町の地域防災力の向上に資する大きな強みであると認識しております。

防災士の組織としては、議員御案内のとおり防災士連絡協議会を立ち上げ、年1回の総会において相互連絡や研修等を行っているところでございます。

防災士の体制づくり及び活動支援につきましては、防災士が災害発生時に有効に機能するためには、組織体制の明確化が必要であると考えております。

防災士相互の連携体制や災害発生時の役割分担が明確でなければ、実効性のある活動は困難であります。特に、町との連絡体制や責任の所在を明らかにすることが重要であると思われれます。

このため、防災士の役割を明確にすることを目的に、活動範囲及び位置付けを岩泉町地域防災計画に明記し、町と防災士との役割関係を制度的に整理してまいります。

災害発生時の防災士の役割分担につきましては、情報収集、安否確認、避難所支援、要配慮者支援等が考えられますが、機能別に班編成を行い、各防災士の能力や居住地区を踏まえた配置を事前に定めることも有効であると考えております。

今後は、これらの体制整備を図るとともに、防災訓練等を通じて実効性を検証し、課題の改善に努めることにより、町と防災士が一体となった防災体制の確立を図って

まいります。

今後とも、地域の自助・共助の強化を図り、災害に強いまちづくりを推進してまいりますので御理解をお願い申し上げます。

以上で答弁を終わります。